会議録

会議の名称	第７回子ども子育て審議会計画専門部会
開催日時	令和６年１月29日（月曜日）午前９時30分から11時まで
開催場所	田無庁舎503会議室
出　席　者	委員：小野委員、井上委員、島崎委員、菅野委員、関根委員、武田委員、平野委員、中村委員 事務局：遠藤子育て支援部長、岡田子育て支援課長、齋藤幼児教育・保育課長、笹本幼児教育・保育課主幹、中村幼児教育・保育課主幹、宮崎子ども家庭支援センター長、栗林子育て支援課長補佐、山岡児童青少年課管理係長、本谷子育て支援課調整係主査、須藤子育て支援課調整係主事
議　　題	１　審議 （１）ヒアリング調査報告書について （２）子育て支援ニーズ調査・子どもの生活実態調査の回収状況について （３）子どものワークショップについて ２　その他
会議資料の名　　称	資料１　ヒアリング調査報告書 資料２　子育て支援ニーズ調査・子どもの生活実態調査　回収状況 資料３　西東京市子どもワークショップ企画案
記 録 方 法	□全文記録　■発言者の発言内容ごとの要点記録　□会議内容の要点記録

会　議　内　容

１　審議

（１）ヒアリング調査報告書について

○小野部会長：
　ヒアリング調査が報告書として取りまとめられたので確認する。

○事務局：
　資料１に沿って説明

○小野部会長：
　議論に入る前に、各委員からヒアリング調査を実施した感想を順に伺いたい。

○井上委員
　ぞうさん文庫を運営しているボランティアにヒアリングを行った。南町コミュニティセンター隣の公園にいる子どもに声を掛けて参加を促すなど、地域に根付いている活動だと思った。コロナ以前から、共働き家庭が増えて利用者が減り、活気も減ったという話を聞いた。また、ＰＴＡの協力が年々減っていたり、スタッフの高齢化も進んでいるとのことだった。
　子どもの生活までは介入していないが、子どもの名前を知っていたり、長い期間子どもを見守っているようであった。

○島﨑委員
　放課後カフェでヒアリングを行った。コロナ前は週１回開催し、スタッフの役割分担がしっかりできていたが、コロナ後はスタッフ３～４人で参加生徒50人の対応をしている。飲み物の提供のみで精一杯の状態で、子どもとの関わりが減り、放課後カフェの視察に来る方に手伝ってもらうこともある。また、武蔵野大学のボランティアサークルの学生に協力してもらっている。
　学校生活の悩みを打ち明ける生徒もいて、その際は学校と連携して対応している。

○菅野委員
　子育て関係講座の参加保護者にヒアリングを行った。２人の母親にヒアリングし、１人は１歳の子どもがいて、もう１人は６か月の子どもがいた。２人とも市のＬＩＮＥで情報を取得している。子どもを預けて、母親同士の交流ができて良かったという話や、本当は働きたいが、子どものために今は働けないというモヤモヤがあることを聞いた。話を聞いていると、保護者は誰かとつながっていたいのだと感じた。

○武田委員
　子育て支援センターとのどか広場の利用保護者にヒアリングを行った。センターを毎日のように利用している方や、在宅勤務の邪魔にならないようにセンターに来ている方など、ヒアリングで実態を聞けることが多くあった。のどか広場は、兄弟２人を連れて通っている方もいて、子育ての負担感を減らす場所として利用されていた。
　親同士の友達ができることや、スタッフが手伝ってくれることが良かったという意見があった。徒歩圏内でよちよち歩きの子どもが遊べるところが増えると嬉しいと話していた。保育園入園後に働きたい方が非常に多かった。
　子育て支援団体の方にもヒアリングを行い、ボランティアに頼るだけでない援助があると良いと思った。

○中村委員
　北原児童館乳幼児事業の参加保護者にヒアリングを行った。子どもがけがや病気をした時にどこに連れて行けば良いのか分からない保護者が多かった。保育園に対する悩みも多いようであった。子どもが同じ月齢や第一子など、同じ状況にある保護者が交流できる場所があると良いとのことだった。
　ひばりが丘児童センター長にもヒアリングを行った。いじめに遭っている子どもや不登校の子どもにも対応している。子どものフォローをしきれないときは、子ども家庭支援センターに連絡するが、午後４時で受付が終わってしまうので、午後４時以降の開館時間帯でも連絡が取れないことが多々あるとのことだった。

○平野委員
　ひばりが丘児童センターでヒアリングを行った。中村委員の補足になるが、子ども家庭支援センターと連絡取れず、警察に連絡するときがあり、そうすると保護者が非常にセンシティブになるとのことであった。
　児童センターでは、中高生を中心としたイベントを開催したり、積極的に地域活動に参加していた。乳幼児から18歳までを対象にどのようなことでもできると伺い、児童

館・児童センターの可能性を感じた。
　また、地域福祉コーディネーターのヒアリングでは、どこに相談すればいいのか分からない時にほっとネットを利用できることを知った。行政サービスだけではカバーできないソフトを補っていると感じた。ソフト的なつながりができ、機能すると良いと思った。中高生への対応が課題という話も伺った。

○小野部会長
　ぽくるーむでヒアリングを行った。スタッフは子どもの権利に対する意識が高い方で、子ども自身が企画できる機会もあり、様々な取組を行っていた。スタッフと子どもが平等に接しており、不登校だけではなく、学校に行ったり行かなかったりする子どもの居場所にもなっている。活動では、人手不足と場所の確保に苦労している様子だった。
　一度ぽくるーむでつながった方とはＬＩＮＥでつながっているが、接点がない方には知られていないとのことだった。

○関根委員
　ヒアリング調査では、紙面のアンケート調査では得られない生の声が聞けたと思う。
　ヒアリング調査をまとめることで、困りごとの相談場所などの社会資源があることを伝えられると思う。

○小野部会長：
　様々な窓口や場所などがあり、盲点になっているところがあるかもしれない。今後、審議していければ良いと思う。
　資料１について、何か意見はあるか。

○井上委員
　ヒアリング調査を基にどのように改善していくかは、審議会で審議するのか。

○事務局
　来年度の計画専門部会において、ヒアリング調査に加えて、子育て支援ニーズ調査と子どもの生活実態調査の結果を確認し、どのように計画に反映するかを検討いただきたいと考えている。

○武田委員
　資料１の７ページ学童クラブを利用して困っていることに「通所人数に施設の広さが伴っていない状況を改善してほしい」とあるが、現場の指導員も困っているので、もう少し具体的に書いた方が良いと思う。

○事務局
　自由記述に様々な意見が上がっているので、具体的な記載を増やす。

○平野委員
　資料１の12ページ地域福祉コーディネーターの問題に、ほっとネットステーションの

活動が広く知られていない旨を追記いただきたい。

○島崎委員
　のどかによる仲介でほっとネットのサービスを受ける要支援者がいたことがある。要支援者が直接ほっとネットに依頼できることは知られていないと思う。

○平野委員
　ほっとネットは、ささいな悩み事や困り事の連絡を受けると伴走型の支援を行い、それを行政サービスにつなげることもあるとのことだったので、市民の目に触れる機会が増えると良いと思う。

○関根委員
　両委員の発言のとおり、ほっとネットから行政につなぐケースもあれば、行政からほっとネットにつながるケースもある。様々な方に利用いただきたい。

○事務局
　ほっとネットに認知度に関する課題を追加する。

○小野部会長
　報告書を修正し、審議会に報告したい。また、修正の確認については、部会長に一任いただきたい。

○委員
　異議なし

（２）子育て支援ニーズ調査・子どもの生活実態調査の回収状況について
○事務局
　資料２に沿って説明
　３月末までに報告書として取りまとめる。

○小野部会長
　何かご意見や質問はあるか。

○平野委員
　他自治体も同程度の回答率であるのか。

○事務局
　西東京市は実施時期がやや早いので、他自治体の直近の結果はまだ上がっていないが、同程度の数字で推移する見込みである。

○小野部会長
　報告書は、まとまり次第委員に送付し、４月の計画専門部会までにお目通しいただけ

ればと思う。

（3）子どものワークショップについて

○事務局

資料３に沿って説明

○小野部会長

令和５年12月頃から、西東京市と武蔵野大学で打合わせを行い、資料３のとおり大学生から提案があった。委員から率直なご意見をいただきたい。

子どもの夏休みに合わせて７月下旬に開催するという前提でスケジュールを組んでいる。本日は、ワークショップの大きな方向性を決め、４月の計画専門部会では具体的な実施案を検討したいと思う。

○平野委員

小学生のテーマは放課後のこととしているが、居場所のことなのか、または勉強などにも広げる余地はあるのか。

また、事前学習が非常に重要になると思う。子どもは座学で聞いてもピンとこないので、クイズやロールプレイなどのワークショップ形式にした方が良いと思う。

○小野部会長

テーマは、大学生からの提案であるので、他にもご意見をいただければと思う。計画専門部会でのご意見を大学生に報告し、企画を練り直していただく予定である。

子どもの声をワイワイプランにインプットすることが大きな目的であり、居場所はその一つである。特に小学生は、テーマを居場所に絞っても良いのではと考えている。しかし、放課後は忙しい子どもも多く、居場所に行っていない可能性もあることから、放課後と休日の居場所を聞いたり、居場所を利用したことがあるかなどを聞けると良いと思う。

事前学習については、ワークショップ形式が良いと思う。

○平野委員

子どもが気になることは違う可能性もあり、４グループあるので、中高生のようにテーマを変えても良いのではないか。

○井上委員

事前学習の内容が大事だと思う。我が家でゲームを例にして子どもとお金の話をしたが、理解するのに時間がかかった。身近で考えやすいところから話をした方が良いと思う。ワイワイプランを知らない小学生にとっては、つかみがとても大事だと思う。

○島崎委員

事前学習でワイワイプランについてインプットされるのであれば、小学生のテーマにもワイワイプランに意見をくださいがあっても良いのではないか。そうすれば、ワイワイプランに関心を持つ子どもが増えると思う。

○小野部会長
　事前学習の内容についても今後企画を練る部分である。ワイワイプランから居場所に話をつなげる場合は、子どもにわかりやすいワイワイプランの説明が必要になる。また、最初から４つのテーマ、または２つのテーマを２グループずつ実施するなどは工夫できると思う。

○島崎委員
　中高生の放課後のことも気になるところである。

○菅野委員
　放課後とすることで生活実態が見えてくると思う。
　小学生は、最初は緊張してなかなか発言できないのではないかと思うが、ファシリテーターが入ればできるのかもしれない。

○小野部会長
　放課後のことを中高生にも聞けると良いと思う。
　ファシリテーターは、大学生のほか子どもの権利擁護委員等も配置を予定している。ファシリテーターは重要な存在になると考える。

○平野委員
　市に対して意見を言える場というよりも、参加した子どもが、私たちの社会は私たちで変えられる、自分が参加して変えられることが実感できる場になる良いと思う。毎年継続していくことで、投票率なども上がるかもしれない。

○菅野委員
　意見を発言するよりも、書いてはっていくという方法もあると思う。

○小野部会長
　意見をポストイットに書いて模造紙にはる方法も一般的であると思う。
　今回は３回全てに参加できることを前提として募集する。参加者は、話しやすいように１グループを５人以下として、中学生15人、高校生10人と設定している。人数に関してもご意見をいただきたい。

○武田委員
　高校生も15人にするのはいかがか。

○小野部会長
　１グループ中学生３人と高校生２人の想定で、高校生は10人としている。またグループにファシリテーター１人とする。

○平野委員
　参加者がなかなか集まらないと思うので、参加賞のようなものがあると良いと思う。

○小野部会長
　何か予定はあるか。

○事務局
　予定はないが、当日直接対象者に声掛けできるような、子どもが集まる場所で実施するのも一つの方法だと思う。他の自治体では、クッキングイベント等を開催した会場で、その参加者にヒアリングを行った例がある。

○武田委員
　中高生は生徒会に声をかけるのか。

○事務局
　幅広く案内したいと考えている。また、ワークショップ参加者に渡す「参加証明書」は、進学等の際に積極性や行動力の証明に活用できるので、魅力の一つになると思う。

○菅野委員
　児童館・児童センターの中高生イベントに参加している子どもは、積極的な子どもが多いので、開催を周知できると良いと思う。

○井上委員
　保護者の立場からは、募集の段階でワークショップ全体の日程が提示されていないと参加しにくい。
　児童館・児童センターの先生から子どもへの声掛けも周知に有効的であると思う。

○小野部会長
　ワークショップの開催日程について、終業式直後が良いか、または翌週が良いなどはあるか。早めに決められればと思うが、いかがか。

○事務局
　関係者と調整し、早めに決定したい。

○小野部会長
　場所についてもご意見をいただきたい。

○井上委員
　武蔵野大学で開催できれば、大学のキャンパスツアーも一緒にでき、中高生にとって楽しいと思う。

○平野委員
　大学生がワークショップとは別に、何かの機会を提供してくれると良いと思う。

○小野部会長

大学の図書館を見たり、学食を見たりできると良い。
今後は、大学生との打合せを部会長と事務局で進めるが、計画専門部会員の方も希望があれば入っていただければと思う。

○事務局
オンライン会議の通信料等をご負担いただくことをご了承いただきたい。

○平野委員
仕事の経験をいかせるので協力したい。

○井上委員
日程が合えば協力したい。

○小野部会長
それでは、ご意見を資料に反映し、審議会に検討状況を報告したい。また、修正の確認については、部会長に一任いただきたい。

○委員
異議なし

２　その他
○事務局：
本日ご審議いただいた資料を修正し、部会長にご確認いただいた後、審議会報告資料とする。
次回の会議については、改めて日程調整させていただく。

○小野部会長：
それでは、第７回子ども子育て審議会計画専門部会を閉会する。

閉会